

活動期間

【第1期】2013年3月12日（火）～3月18日（月）

【第2期】2013年3月19日（火）～3月25日（月）

活動地域

釜石市ほか、岩手県沿岸南部を中心とした地域

活動スケジュール

【第1期】

12日（火）拠点集合、視察巡回
13日（水）活動日
14日（木）活動日
15日（金）活動日
16日（土）活動日
17日（日）活動日、拠点解散
18日（月）各地到着

【第2期】

19日（火）拠点集合、視察巡回
20日（水）活動日
21日（木）活動日
22日（金）活動日
23日（土）活動日
24日（日）活動日、拠点解散
25日（月）各地到着

送迎バス

「銀河ライナー」（京都駅・名古屋駅・東京駅経由、滞在拠点までの直通便）を運行します。

■乗車料金（参加費とは別途必要となります。）

京 都：20000 円

名 古 屋：16000 円

東 京 駅：8000 円

※交通費は往復分です。

■運行時間と発着地

出発予定時刻

【3月11日（月）：第1期】【3月18日（月）：第2期】

17:30 京都駅八条口観光バス乗り場

19:30 名古屋駅太閤通口観光バス乗り場

24:00 東京駅八重洲口ヤンマー東京ビル前

↓

【3月12日（火）：第1期】【3月19日（火）：第2期】

8:30 五葉地区公民館着（岩手県住田町）

帰着予定時刻

【3月17日（日）：第1期】【3月24日（日）：第2期】

21:00 五葉地区公民館出発

↓

【3月18日（月）：第1期】【3月25日（月）：第2期】

5:30 東京駅八重洲口ヤンマー東京ビル前着

10:00 名古屋駅太閤通口観光バス乗り場着

12:00 京都駅八条口観光バス乗り場着

生活について

■入浴

最寄の入浴施設を利用（下記、入浴施設の例）

遊林ランド種山（〒029-2311 岩手県気仙郡住田町世田米子飼沢30-193）

しゃくなげの湯っこ五葉温泉（〒022-0005 岩手県大船渡市日頃市町赤坂西風山1-5）

ホテルシーガリアマリン（〒026-0001 岩手県釜石市平田町3-61-22）

■食事

各自買出し、自炊などを予定

■最寄の施設

	名称	電話番号	営業・診察時間	定休・休診日
【病院】	①住田地域診療センター	0192-46-3121	9:00～（午前中）	土曜、日曜、祝日
	②上代医院	0192-46-3125	9:00～11:30／ 13:30～16:00	水曜、土曜の午後、日曜、祝日
	③桜井医院	0192-48-2110	8:30～11:30／ 13:30～17:00	土曜、日曜、祝日
【警察】	①大船渡警察署 上有住駐在所	0192-48-2301		
	②大船渡警察署 世田米駐在所	0192-46-3110		
【消防】	①大船渡地区消防組合大船渡消防署住田分署	0192-46-2119		

参加費

（5泊6日） 9,000円

*参加費は当日徴収します。

宿泊場所

■五葉地区公民館

〒029-2501 岩手県気仙郡住田町上有住上有住字中卒 63

※こちらの拠点は「Softbank」がエリア外です。無線LAN設備は用意しておりませんので、
ご了承ください。

主な活動内容

- ・ 応急仮設住宅（お茶っこ・鍋っこサロン）
- ・ 応急仮設住宅（子どもの居場所支援、学習支援）
- ・ 漁業支援（ワカメ漁の支援）
- ・ その他（イベント支援等）等

参加対象

- ・ 全国の大学生、大学院生、専門学校生。
 - ・ 心身ともに健康で体力面での不安がない方
 - ・ 自発的な意志と責任で活動に主体的に参加できる方
 - ・ チームワークを大切にし、コミュニケーションを楽しくとれる方
- ※参加にあたり家族の承諾を受けてください。

お問い合わせ

■お問い合わせは、以下の窓口までお願い致します。

メールのみ対応させていただきます。

内容によっては、お電話にてお返事いたしますので、問合せの際には、

(1)お名前、(2)お電話番号、(3)お問合せ内容、をご記入ください。

<いわてGINGA-NET「春銀河2013」事務局>

- ・ 窓口担当：八重樫、早川

Email: ginganet2012@gmail.com

持ち物について

【ご持参頂きたいもの】

- ・ 1週間分の着替え（現地で洗濯はできません）
- ・ 宿泊施設で着る着替え（ジャージ等）
- ・ 防寒具
- ・ タオル、バスタオル、衛生用品、お風呂用品
- ・ リュックサックなど、活動日に移動する際のバッグ
- ・ ノート、ペンなどの筆記用具
- ・ ハンガー、洗濯バサミ（タオル、バスタオル類を干す用）
- ・ 懐中電灯
- ・ 雨具（傘、カッパ等）
- ・ 水筒
- ・ 電源タップ（携帯電話等の充電の場合）
- ・ 現金（コンビニや商店に寄った際の個人の買い物用）
- ・ 健康保険証
- ・ 常備薬（原則、薬等については現地でお渡しいたしません。各自でご用意ください）

【その他（個々人で必要があれば）】

- ・ 貴重品を身に着けるための、小さなウエストポーチやポシェットなど
- ・ 軽食（現地到着後は食事は支給されますが、必要に応じてお持ちください。）
- ・ 寒さ対策品
- ・ 耳栓（就寝時に音が気になる方はどうぞ）
- ・ ビタミン、サプリなど（必要であれば）

【ご持参いただかなくてよいもの】

- ・ 長靴
- ・ 軍手、ゴム手袋
- ・ ゴーグル

※泥かきや家屋整理の活動はしません。

この冊子には、活動の心構えとして、

「病気やけがの予防について」「安全管理について」

を掲載しております。

いわて GINGA-NET プロジェクト「春銀河 2013」に参加される方は、活動開始前に一読頂きますようお願いいたします。また、現地での活動時などには常に携行してください。

1. 病気やけがの予防について

被災地の活動では、自分自身のみならず、他のボランティア参加者や被災地の方々の健康を確保するため、ケガや病気の発症を未然に防ぐことが重要です。

【インフルエンザ】高熱、全身の倦怠感・痛みのほか、気管支炎や肺炎を併発することもあり、重症化すると生命にかかわります。集団発生を防がなければなりません。

☞手洗い、うがいを励行すること。インフルエンザが疑われる症状が出た場合は、活動を中止し、医師の診察を受けること。

【食中毒】ノロウイルス、黄色ブドウ球菌などによる下痢、おう吐、発熱など。重症化すると生命にかかわります。集団発生を防がなければなりません。

☞こまめに手洗いを励行すること（とくにトイレ使用時）。食品を調理する場合は、食材の加熱、まな板、包丁などの洗浄・消毒を励行すること。疑われる症状が出た場合は、活動を中止し、医師の診察を受けること。

【脱水症】頭痛、めまい、発熱、けいれん等の症状があらわれるほか、血流悪化や血圧低下によって血栓ができやすくなることで、最悪の場合生命にかかわることもあります。

☞のどの渇きを感じる前に、少量の水分（薄めたスポーツドリンクなど）をこまめに摂り、カフェインを含む飲料（濃いお茶・コーヒー、ビール）はできれば避けること。

2. 安全管理について

(1) いわて GINGA-NET「春銀河」における想定されるリスク

- ・被災地に 2 次災害（地震・津波等）が生じた時
- ・活動先の現状把握が著しく困難である時（例、活動先がパニックに陥った等）
- ・自身の健康状態・精神状態が悪化した時等

(2) 基本事項

- ・安全はすべてに優先する。
- ・危険な事態が発生したときは、速やかで適切な対処が求められる。それは、一時的には各自の判断で緊急に行われ、その後、速やかにその場にいる者の集団による連携した行動に移され、そして最終的には組織全体による行動に移行する。
- ・危険発生時は冷静に行動すること。混乱や動揺は、その結果をより悲惨にする。
- ・五葉地区公民館および体育館（宿泊拠点）は災害時緊急避難場所になっているため、宿泊拠点にいたる際に地震などの災害が発生した場合は、その場で待機する。
- ・活動先で地震などの災害が発生した際は、チームリーダーはメンバーをすみやかに安全が確保できる場所へ移動させ点呼を取り、五葉地区公民館の現地スタッフに状況報告の連絡をして、指示を仰ぐこと。
- ・安全管理に関する、即時的な情報は最終的に「NPO 法人いわて GINGA-NET 代表八重樫綾子」に集約する。
- ・緊急時の最終的意志決定は事務局で協議の上、判断する。
ただし、物理的に八重樫や現地スタッフの意思決定が及ばない場合は各人の適切な判断にゆだねられる。ただし、被災地での単独行動は原則しないものとする。

※いわて GINGA-NET プロジェクトの参加者に対する活動におけるサポート体制について

- ・本プロジェクトに参加される場合には、ボランティア保険（天災対応プラン）への加入をお願いしています。
- ・大きな余震、その他災害が発生した場合またはその恐れが高い場合は、ボランティアの安全を最優先し、プロジェクトの中止及び避難の指示を行います。
- ・宿泊拠点の五葉地区公民館、及び各活動場所周辺の医療機関の情報等を把握・共有し、万が一の事態が起きた時にも迅速に対応できる体制を確保します。
- ・宿泊拠点となる五葉地区公民館にはスタッフが参加者の宿泊サポートとともに、運営管理者として常駐し、安全管理を図ります。

(3) 安全管理のポイント

現地でのリスクに対する安全管理のポイントは、下記の通りです。

■安全上のリスクに対して

- ・2次災害(地震・津波等)が発生した場合、ただちに活動を停止し安全な場所へ避難する。
- ・活動先が混乱状態に陥るなどの事態が発生し、危険を伴う可能性がある場合は、無理に業務を遂行しようとせず、安全な状況を確認してから行動を再開する。
- ・事故等により応急処置が必要になることを想定し、それに必要な最低限の救急道具(絆創膏、包帯等)を常に携帯しておく。その他の道具、薬品は本部が管理する。
- ・事故等により行動が不能になった場合、単独で救助を求めに行くことはしない。
- ・危険地区への立ち入り、危険行為は行わない。
- ・全体集合時には連絡体制に準じて全体点呼を行う。

■体調・健康に関するリスク

- ・自身やチームメンバーの健康状態や精神状態に気を配り、異常が感じられたらすぐに本人への状況確認を行い、現地への報告をする。
- ・飲食（屋内外不問）時は、手指消毒を徹底し、周囲確認にも取り組む。
- ・定期的なうがいに率先して取り組み、周囲にも促す。
- ・十分な睡眠を得られるように、消灯時間を守る。

■その他のリスクに対して

- ・活動時間中など、参加者が宿泊拠点から離れている時間帯は参加者が荷物を置いている施設の施錠をしますが、貴重品は常に身に付け、個人で徹底して管理してください。当実行委員会では一切お預かりすることはできません。紛失等した際の責任は負いかねます。